

令和4年生駒市教育委員会第6回定例会会議録

1 日 時 令和4年6月27日(月) 午前9時30分～午前11時26分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第6号 臨時代理につき承認を求めることについて(令和4年生駒市議会第4回(6月)定例会提出議案の意見について)
- (2) 議案第17号 令和4年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について
- (3) 議案第18号 生駒市社会教育委員の委嘱について
- (4) 議案第19号 生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
- (5) 議案第20号 生駒市スポーツ推進審議会への諮問について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育こども部長	奥 田 吉 伸	教育こども部次長	坂 谷 操
生涯学習部長	八 重 史 子	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	前 田 伸 行	幼保こども園課長	松 田 悟
幼保こども園課指導主事	湯 川 祐美子	こども総務課長	武 元 一 真
子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂	生涯学習課長	清 水 紀 子
図書館長	西 野 貴 子	図書館課課長	錦 好 見
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	石 田 昌 代
学校給食センター所長	古 林 像 一	教育指導課課長補佐	花 山 浩 一
教育政策室長	日 高 興 人	幼保こども園課課長補佐	福 山 清 美
こどもサポートセンター所長	若 狹 美登里	生涯学習課課長補佐	井 川 啓一郎
図書館南分館長	谷 江 真美子	生駒駅前図書室長	入 井 知 子
教育総務課(書記)	佐 竹 裕 介	教育総務課(書記)	吉 川 優 香

6 傍聴者 3名

午前9時30分 開会

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・教職員の夏期研修について、前田教育指導課長から説明
(質疑)

古島委員：今回の研修はオンラインでなく対面で行われるのか。その場合、すべて講演形式であるか。

前田課長：対面で行われる。研修の内容については現在計画中であるため、グループワーク等の有無についても現地点では分からない。

古島委員：これまでは講演形式で行われているかと思う。より多くの先生方が参加するために、講演形式が適していることは理解できるが、他の先生方がどのような教育活動を行っているのかを知る機会を作るために、対話型・ワークショップ型の研修も取り入れていただきたい。新型コロナウイルス感染症の状況にも影響されるかと思うが、対話を通じて市内の教育を向上させてほしい。

飯島委員：先日の学校訪問にて、従来型の黒板とチョークでの授業を、先生のパソコンとディスプレイに置き換えた授業の形は多く見受けられたが、個々の端末を使っての学習の機会は少なく感じた。初任者研修として位置づけられている「ICT活用教育研修」について、学んだことを実際の授業に繋げるための働きかけをしてほしい。

・のびのびほっとルームの開設について、花山教育指導課課長補佐から説明
(質疑)

イノベ委員：まだ開設から1週間かと思うが、利用状況はどうか。

花山先生：4分の1程度が集団での利用、4分の3程度が個別での利用となっている。

神澤委員：利用者数はどうか。

花山先生：全体として20名程度であるので、集団の利用が5名前後、個別の利用は15名程度である。

神澤委員：運営側の人数は足りているか。

花山先生：現在は、2名が常設で運営している。それに追加して、カウンセラーが週1回、学生スタッフ2名が週2回来ていただいている。集団は2名のスタッフで運営しており、個別は予約制であるので現在はスタッフの数は足りている状態である。

神澤委員：利用者の年齢や性別についてはどのような傾向があるか。

花山先生：中学年が多いように思う。男女比率は変わらない。

神澤委員：保護者対応はどのようにしているか。

花山先生：保護者からは個別の時間に相談を受けている。子どもにはその間、施設の見学等をしてもらっている。また、送迎の際に話すことも可能である。

神澤委員：発達障害の子どもや、家庭の問題を抱えた子ども等様々な子どもがいるかと思う。今後そのような子どもたちをどのようにサポートできるか非常に楽しみにしている。

飯島委員：現在の利用者はどのようなエリアから来ているのか。

花山先生：通学エリアは市内全域としている。北エリアから来ている児童もいる。駅から近いので、高学年になって保護者の了承があれば電車通学も可能であると考えている。

- ・「えん・くろす」について、松田幼保こども園課長から説明
(質疑)

飯島委員：英語教室や書き方教室について、未就園児や就園児ではなく地域の方に向けた取組か。

松田課長：在園児に向けた取組である。

飯島委員：園を地域のコミュニティの中に位置付くためにも、保護者も地域との接点を持つことが大切であると思う。移動図書館や朝市等の地域の方々に関わりやすいところから始めて、その関わりを幼稚園のカリキュラムの中にも交えていくように働きかけてほしい。

吉尾委員：幼稚園は教育施設である。人が出入りすることは、子どもたちが地域としての認識を深めるために大切である。保護者が喜ぶイベント的なものばかりではなく、幼稚園教育の本質を理解した上で地域の方の力を借りることが大切であると感じる。子どもにとってどうかという視点を忘れずに取り組んでほしい。

伊藤委員：地域の関心が幼稚園に向くことは良いことだと思う。しかし、自由な発想を持つ幼児の特性を活かした取組を行ってほしい。今説明のあった取組は小学生がやることに似ているように思う。幼稚園でこれまで行ってきただろう五感で育てるような活動にも取り組んでいただきたい。

原井教育長：この「えん・くろす」の活動は、園の教育課程とは別であり、午後に行うものである。園が中心で行っているものではなく、地域の方や保護者が園とは別の組織として行うものである。

松田課長：英語教室や書き方教室についても、課外活動として教育時間以外での活動である。

- ・令和5年 二十歳のつどいの開催について、清水生涯学習課長から説明
<参照：資料1>
(質疑) なし

○日程第3 報告第6号 臨時代理につき承認を求めることについて（令和4年生駒市議会第4回（6月）定例会提出議案の意見について）

- ・臨時代理につき承認を求めることについて（令和4年生駒市議会第4回（6月）定例会提出議案の意見について）、西スポーツ振興課長、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明

<参照：議案書p1～p4>

（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 議案第17号 令和4年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について

- ・令和4年度生駒市教育委員会の活動の点検及び評価について、奥田教育こども部長から説明

<参照：議案書p5、別冊1>

（質疑）

中川委員：31ページ上段「高齢者の学びへの意欲向上と、学びを「行動」につなげる仕組みづくり」について、新型コロナウイルス感染症や介護等で出席できない方が増えているかと思う。評価欄に「高齢者ニーズを踏まえた学びのあり方を今後検討する必要がある」とあるが、具体的な取組を知りたい。

清水課長：おっしゃるように、コロナ禍の影響もあり休学される方が一定数おられる。学則では休学期間を最大2年としているが、状況に応じて期間を延長する等柔軟に対応している。また、入学者数の減少や入学時の平均年齢の上昇などの傾向もあり、学生全体の平均年齢も高くなっている。現状を踏まえた学習のあり方など、学生委員会と共に模索しているところであり、課題を整理して、年内には方向性を決定したいと考えている。

中川委員：今まで通りでは上手いかなくなっている部分があるかと思うが、今後も参加しやすい寿大学を作っていただきたい。

伊藤委員：6ページについて、具体的な数字を入れていただき非常に分かりやすくなった。8ページについて、令和2年4月時点で待機児童数は65人であるが、目標が108人となっており、4月から1年かけて増えていくということを知らない人には分かりづらいと感じる。年度末の目標であると記した方が分かりやすいのではないか。また、9ページの学童保育について、希望した方は全員入れているのか。

武元課長：学童保育について、希望された方は全員入っている。

伊藤委員：令和3年度から民間の学童を1箇所ずつ増やしているのは、増加予測に基づいて行っているのか。

- 武元課長：その理由もあるが、民間学童を取り入れることで多様な学童保育を進めるためである。
- 伊藤委員：文面ではその旨が読み取りにくいと思うので、その目的もどこかで記載した方が良いと思う。また、12ページ上段の保幼小連携の評価「職種によつての考え方や子どもの見方の違いを認識し、理解し合った」について、非常に素晴らしい内容であるが、理解し合った上でどう繋げていくかについても記載があるとより良いと感じる。幼児期の特性を残したまま成長する子どもも多いが、幼稚園では指示が上手く通るのに、小学校では苦勞している場面をよく見る。それは環境の違いなのか、指示の方法の違いなのか、先生方が意見交換ができるような共同の研修等があれば良いと思う。次に12ページ中段の記載について、活動内容には「「遊び」を「学び」をつなぐ幼児教育を可視化」とあり、実績・成果には「「遊び」を「学び」への視点で保育を分析する研修」とある。「幼児教育」と「保育」はどのように使い分けているのか。
- 湯川指導主事：「遊び」と「学び」については、子どもたちの普段の様子を撮影したものをしながら研修を行っている。「幼児教育」については、就学前に行う教育として、幼稚園や保育園等限らずどの就学前施設でも共通して使う言葉である。整合性を持てるように表記し直したい。
- 伊藤委員：15ページの学校創造推進事業について、この事業はアクションプランに記載がないかと思う。実施回数が多いようであるが、詳細を教えてください。
- 前田課長：この事業の件数は、各学校からの報告によって計上している。読み聞かせによる読書活動の推進や、地域に住む障がいを持った方や外国人を招いての福祉や国際交流を目的とした学習、琴や三味線等専門家を招いての伝統音楽の学習等内容は多岐にわたる。学校によって計上の仕方が様々であるので件数が多くなっているかと思う。この中には、いのちの学習やSOSの出し方教室の講演も含まれている。予算に関係なく全て挙げていただいているため、かなり多い件数となっている。
- 原井教育長：ご指摘いただいた内容については、7月1日までに具体的な修正案をご提出願いたい。
- 飯島委員：4ページ教育委員会の活動状況について、実績・成果として件数が上がっているが評価が前年度と同じである。このような事業は他にもいくつか見られる。また、昨年度よりも臨時会の件数が減っているのにも関わらず、「必要に応じて臨時会を開催する」という表現には違和感がある。「緊急性のある案件に関して臨時会を開催する」というように、変化のある記載にした方が良いかと思う。学校訪問についても、前年度は児童生徒に1人1台端末となってから初めての学校訪問であったので、特にICT機器の効果的利用を重点的に点検したという旨の記載をしてはどうか。次に5ペ

ージ上段の「教育委員としての資質・能力の向上」について、「今年度は」とあるが具体的に年度を記載した方が良いのではないかと。次に「各種教育機関との連携」について、具体例を記載した方が良いのではないかと。次に、3段目の総合教育会議について、「2回開催した」とあるが、主催者は市長であるので、協議内容について記載した方が良いのではないかと。他には、6ページ「地域で支え合う子育ての推進」や、8ページ「待機児童解消に向けた取組の推進」、12ページ「幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぎ保幼小接続事業」、31ページ「高齢者の学びへの意欲向上と、学びを「行動」につなげる仕組みづくり」についても、前年度と同じ内容ではなく、令和3年度の具体的な実態を何か1つでも加えるべきかと思う。さらに、24ページ「読書活動・学校図書館の充実」の学校司書の配置について、これは前年度のことだけでなく以前から達成されていることである。学校訪問へ訪れた際、子どもたちが読書へ興味を持ってくれるように、学校司書さんが様々な工夫をされていると感じた。せっかく努力していただいているので、そのことを記載してはどうか。詳細は私では分からないので、担当課にアピールしたい点を加筆してほしい。

原井教育長：今挙げていただいた部分以外でも加筆が必要だと感じる点があれば、7月1日までにご提出いただきたい。

レイノルズ委員：令和2年度と令和3年度を比較し、事業の内容が増えており、ページ数も5ページ増えているが、記述が足りないと感じる。次年度以降のことになるが、分かりやすくするために様式そのものを変えることを検討していただきたい。例えば、奈良市や交野市の評価報告書が参考になるかと思う。奈良市の報告書には具体的なことが記載できる欄がある。また、奈良市には給食・食育に関する記述があるが、生駒市はアクションプランに基づいて作成しているため、活動をしているのに記述がないのはもったいないように感じる。生駒市は教育に力を入れており、様々な活動ができていると思う。報告書の内容が多ければ良いというわけではないが、市民に活動を報告する機会であるのに、伝えられないのはもったいないと感じる。誰にでも分かるような様式へ変えていただけるように次年度に向けて検討していただきたい。

飯島委員：レイノルズ委員もおっしゃたように、文字数を多くすればよいというわけではないが、私も実際の取組が報告書に十分反映されればと考えている。しかし、報告書が不十分であるわけではなく、どのような評価の観点を設けるのかも重要であるだろう。そのため、アクションプラン作成の時点で報告書を見据えて考える必要があると感じた。次回からはそのような点も含めて作成したい。

吉尾委員：報告書を拝見して、事業に一生懸命であるのが伝わった。行政としては事業ありきであると思うが、実際に携わっている学校や幼稚園等の現場から

の情報も必要かと思う。具体的にどのような活動を行っているのかが見えるものになれば良いと思う。また、質問がある。まず1点目、15ページ上段の活動内容に「地域の現実に即した当事者能力」という記述があるが、具体的にどのような意味であるか。次に、34ページ下段「まちづくりのプラットフォーム」とあるがイメージしづらい言葉に感じる。具体的な内容を聞きたい。

前田課長：「地域の現実に即した当事者能力」について、学校運営協議会においては、各地域と学校が連携するために、今いる地域の当事者でできることを考えて教育課程に繋げていくという内容である。記述が伝わりにくいということであれば変更したい。

飯島委員：「当事者能力」について、以前坪井委員より「当事者性ではないか」と意見をいただいたが、当事者としての自覚を持って地域に働きかける力を持つという意味を込めて当事者能力にしたいと申し上げた経緯がある。分かりづらいということであれば、一般的に使われる当事者性に変えていただきたい。

原井教育長：地域の一員としての自覚という言葉が一般的に使われるかと思う。そのような解釈で表記を変えたいと思う。次に2点目、34ページ「まちづくりのプラットフォーム」についてはどうか。

西野館長：従来の図書館で貸し借りするというイメージを払拭するため、市民から市民へ本を渡す機会を作る等、市民からの意見を取り入れた事業を行っている。昨年度にはえん・くろすに繋がるような、地域に貸し出しの拠点を置く活動にも取り掛かっている。

奥田部長：点検評価報告書について、事業・取組名称や活動内容、設定目標については、アクションプランに基づいて作成している。そのため、レイノルズ委員から意見があった報告書の活動内容の変更を行うには、アクションプランから変更する必要がある。アクションプランについてはすでに承認されているため、今回挙がっている様々な意見についてもアクションプランに基づいた部分については修正できない。

坪井委員：質問が2点ある。まず1点目、5ページ上段「教育委員としての資質・能力の向上」について、研修等が中止となったとあるが、私と伊藤委員が参加した研修が該当するかと思う。反映されていないのではないかと。次に2点目、4ページ2段目「学校訪問、各施設視察」について、卒業式や運動会に参加していないのにA評価となっており、さらに評価の内容も活動内容と対応していない。修正する必要はないのか。

原井教育長：始めに奥田部長より説明があったように、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響があるため、参加や実施の是非より内容を評価している。運動会や卒業式には参加していないが、他の活動に対しての評価と認識している。

山本課長：1点目の研修については、確認して修正いたします。2点目については、教育長からもご発言があった通り、こちらから依頼しているイベント等については、参加していただけているのでその点を評価している。

原井教育長：これから第3次教育大綱についても、作成に向けて取り掛かっていくことになるかと思う。また今年度分のアクションプランについても、作成を行うことになる。これが来年度の点検評価報告書に繋がるということをしっかり認識して作成していきたい。

審議結果 【継続審議】

○日程第5 議案第18号 生駒市社会教育委員の委嘱について

- ・生駒市社会教育委員の委嘱について、清水生涯学習課長から説明
<参照：議案書p6～p7、資料2>
(質疑)

伊藤委員：資料に記載された役職が変わっても、2年間の任期は継続されるのか。

清水課長：生駒市社会教育委員各団体から推薦いただいております。選出母体の団体から委員の変更等の届出があれば、任期途中での変更もあり得るが、基本的には2年の任期で就任いただいている。

レイルズ委員：生駒市社会教育委員会議の議事録をいくつか拝見した。その中の意見の1つで、教育委員と意見交流の場を設けたいとあった。学校現場との距離も近づいてきていると思うので、代表者だけでもそのような場を設けていただければと思う。検討していただきたい。

審議結果 【議案のとおり可決】

○日程第6 議案第19号 生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について

- ・生駒市スポーツ推進審議会委員の委嘱について、山本教育総務課長から説明
<参照：議案書p8～p9、資料3>
(質疑)なし

審議結果 【議案のとおり可決】

○日程第7 議案第20号 生駒市スポーツ推進審議会への諮問について

- ・生駒市スポーツ推進審議会への諮問について、西スポーツ振興課長から説明
<参照：議案書p10>
(質疑)なし

審議結果 【議案のとおり可決】

○日程第5 その他

・令和4年7月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明（質疑）なし

飯島委員：議事録について質問したい。今真ん中に置いているICレコーダーを基に作成しているのか。

山本課長：ICレコーダーや配信している動画を聞きながら作成している。

飯島委員：以前は議事録を細かく作成していただいていた。しかし、委員が8名に増えたあたりで事務局より簡略化したいと伺い今に至ると記憶している。私も経験があるが、文字起こしの作業は数時間かかってしまう。昨年くらいから文字起こしを行ってくれるAIレコーダーが1万円ほどで購入できるようになっている。公的な機関であるので、一度クラウドに音声が上がってしまうことや、定額料金を支払うことができるのかが問題になるかもしれない。しかし負担軽減のため、このようなAIレコーダーの購入も検討していただきたい。

山本課長：会議録の作成については市役所全体でも課題となっている。取り入れることのできるものがあれば、是非検討したい。

古島委員：5月と6月で学校訪問に参加した。キャリアプランナーの取組についても校長先生からご説明いただいた。HP等で拝見はしているが、実際に見学できる機会があれば是非行きたいと考えている。検討いただきたい。

日高室長：キャリア教育プランナーの尾崎について、今年度は50ほどの取組を考えている。来月の行事予定に記載できると良いが、スケジュールの決定が間に合わないため難しい。メールでお伝え等考えたいと思う。

古島委員：いつどこで行われているのかを出来る範囲で良いので教えていただき、タイミングを見て見学できればと考えている。

原井教育長：現場の取組について、見学していただけることは非常に有難い。他にあるか。

中川委員：まず1点目、教職員向けの夏期研修に参加してみたい。また、教育大綱にあった様々な事業についても見てみたいと思う。検討願いたい。次に2点目、学校訪問に参加し、各学校の状況や課題が知れて非常に勉強になった。良い機会であったので今後も学校訪問を続けていただけたらと思う。

伊藤委員：転入促進の観点で、生駒市がどのような取組をしているかが見える化していることが重要である。若い方はWEBサイトで市のことを調べている。まとめサイト等で子育てに良いと掲載されている市町村のHPは、非常にカラフルでイメージしやすく、見せ方が上手いと感じる。生駒市は内容には問題なく、非常にたくさんの取組を行っている。しかしそれが見えてい

ないのはもったいないので今後見せ方を考えてみてはどうか。協力できることがあれば、是非一緒に取組みたい。

原井教育長：周知の仕方については課題であると認識している。ただ、HPについては教育委員会だけでなく市全体のことでもあるので検討できればと思う。

中川委員：今の意見に追加である。開発協議等で事業者の方とも話す機会があるが、近隣の市町村と比べ、より良い教育の施策が引越しの検討材料になると聞く。若い方を呼び込めるように生駒市の魅力を知ってほしいと感じる。

原井教育長：貴重なご意見をいただけて有難い。

○閉会宣告

午前11時26分 閉会